

---

# ウェーン

ヒキキ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
ウェー

【Nコード】  
N7381Q

【作者名】  
ヒキキ

【あらすじ】  
赤ちゃんの神秘です。

念願の第一子がついに生まれました。苦節三年、共働きで妻との営みの時間もなかなか得られず、さらに妻の母も同じ屋根の下で三人で暮らしていたので、遠慮してできなかった。それゆえ、子供の誕生は嬉しかった。

お隣さんに住む若い美青年もお祝いに石鯛をいただいた。贅沢を言うなら、もうちょっと良いものが欲しかった。まあ、苦学生のようにだし、若者に何かを望む事自体、間違っているのだろう。

しかし、我が子には大きな問題があった。それは、一切泣き声をあげないのだ。

生まれたときですら、産声がなかった。別に精密検査を受けてもなんら異常もないのが、理由は分からない。

表情もない、泣き声もあげない、笑いもしない。不気味だった。

でも、くあわいくないわけがない！

反応が淡泊でも、こちらに意識を向けてくれる。それだけで、私は満足だった。

そんなある日、ちょうど一才になった赤ちゃんのマシユマロのよくに柔らかい頬をツンツンと突ついていると、

「ウェーン」

と、声を出した。いや、泣き声を上げたのだ。  
初めての子供の子供の声に打ち震え、私は妻と義母にこの感動を伝えた。

そして、翌日、義母は死んだ。ゆつくりと息を引き取ったのだ。

それから静かな日常が続いた。我が子は最後に声を出して以来、また静かになってしまった。

そして、我が子がちょうど二才になった時だ。

「ウェーン」

まただ。また泣いた。

だが、その声に喜んだ家族はいない。妻も、その声に何かを恐れるような表情をしていた。

そして翌日、妻が死んだ。

私は恐ろしくなった。この赤ちゃんが泣く度に、家族が減っていく。

それでも、子供を捨てるという罪悪感がのしかかり、私はシングルファーザーとして子供の世話をした。

それから嵐の前のように、静かに一年が過ぎていった。  
ついに来た。ついに、来てしまったのだ。

「ウェーン」

義母が死に、妻が死んだ。なら、残っているのは……。

私は、目の前が真っ暗になった。

間近に迫った死の恐怖に胸を圧迫され、何もやる気がせず、ゆっくりと寝室に向かい、最後の夜を迎える事にした。

翌日、お隣さんの若い美青年が死んだ。

私は赤ちゃんを見て、呟いた。

「……お前は、誰の子？」

我が子はニンマリと、破顔した。

私が見た、初めての笑顔だった。

(後書き)

ゆっくりゆっくり、これからも書き続けていこうかと思っています。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7381q/>

---

ウェーン

2011年10月8日18時14分発行